



豊かな自然・
かがやく文化
それが、阿賀町

～「阿賀町15年教育」で未来の創り手を育む～

阿賀町学習指導センターだより

令和3年6月8日（火）№5

学校訪問より vol.2～津川小 小出 貴子 先生の授業より～

5年算数単元「単位量あたりの大きさ(1)」です。前時までに班対抗で「陣地取りゲーム(じゃんけんをして陣地(紙)を取り合うゲーム)」をしています。本時では、「どこの班が勝ったか、考えよう」を解決する時間でした。



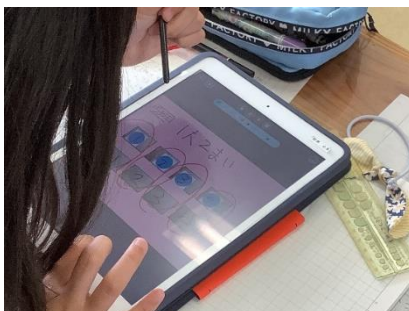
子どもたちは、「枚数」に着目します。「枚数」の多い班こそが「勝ち」と予想していきます。そこで、小出先生は、教室内のつぶやきを拾い、「人数」に着目させていきます。

「人数」が同数の班ごとに比較していきます。そして、その根拠を説明させていきます。その中で、単に「枚数」に着目するのではなく、「枚数」を「班の人数」で割ることで、勝敗を決めるといった考えが出てきます。「単位量あたりの大きさ」の大切な意見が出てきました。

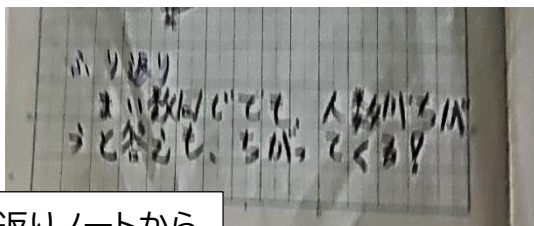


この後、「班の人数は異なるが、枚数が同じ」班を比べることを通じて、子どもたちに「一人当たり」に着目させていきます。

ここで、小出先生は、「ロイロノート」を活用し、モデル図の操作を通じて、子どもたちに「一人分の陣地の広さ(一人分の枚数)」を考えさせていきます。操作することで、「一人分の枚数」を明らかにする思考を可視化させた活動でした。



このように、学習が進む中、一人黙々とタブレットに向かい、学習を進める子どもがいました。(左写真)初めに計算で(授業前半の意見「わり算」を使って)求め、次に、小出先生から提示されたモデル図を使って。課題を解決する方略を明らかにし、解決する様子には、とても感心しました。



ふり回りノートから



「モデル図の操作」という動的な「数学的な活動」が子どもたちの主体的な学びと思考の可視化を表出させた授業であったと思います。今後の研究によって明らかにされていく効果的な「数学的な活動」を提案していただきたいと思います。

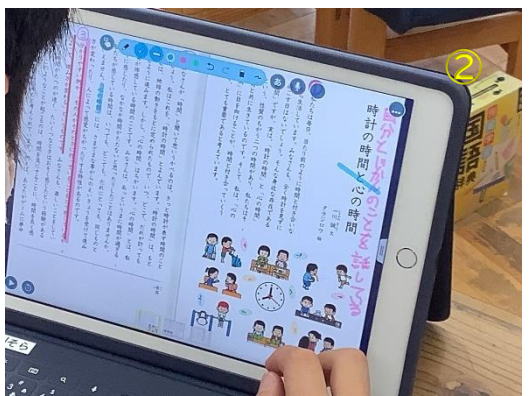
学校訪問より vol.3 ~上川小 梅澤 駿 先生の授業より~

6年生国語単元「時計の時間と心の時間」、第6時「初読の感想で挙げた疑問を引き出し、四つの事例の必要性について考える」授業です。



前時までの学習と本時の学習をつなぐ梅澤先生。初読の感想で「四つの事例に納得がいかない。」という児童の発言を足場にして授業をスタートしました。それぞれの事例への納得度を提示します。(写真①)

「ロイロノート」による教材文の共有。子どもたちは、「四つの事例の必要性」について、それぞれの事例のつながりの証拠となる「言葉」を探していきます。「つながる言葉」に蛍光ラインを引いていきます。(写真②)



一人一人が四つの事例の「つながる言葉」を探したのち、黒板前に全員が集まり、それぞれが探した「つながる言葉」を共有していきます。このとき、黒板前にいる子どもが進行を務めていました(輪番)。(写真③)

子どもたちが主体的に学習に取り組めるようにしたいという意図が見とれました。また、日常的に取り組んでいることから、子どもたちは、関わり方、進め方に順化している様子でした。



この場面、子どもたちが次々と自分の「つながる言葉」を発言していきます。仲間の発言を遮ることなく、梅澤先生は、子どもたちの発言を傾聴します。しかし、子どもたちの発言のつながりが滞りを見取り、すかさず、子どもたちへ働きかけをします。(写真④)

今後も、子どもが主役となる授業づくりを大切にしていただければと思います。

協議会では、「主体的な学びを生む課題」について議論され、さまざまな意見が出されました。また、「学習の自己評価」についても提案がされています。今後の上川小研究を通じて「主体的な学びを生む課題」の要件、「学習の自己評価」の実際を提案していただけるものと思います。よろしくお願いいたします。



授業者が、子どもの「分かる」「分からない」を明確にし、その解決の方略を子どもへ提示していくことが大切です。授業者にこそ子どもの学習状況を的確に「モニタリング」し、「コントロール」する授業力が求められているのです。

発行 阿賀町学習指導センター

住所 〒959-4392 東蒲原郡阿賀町鹿瀬 8931 番地 1

電話 0254-92-3337 FAX 0254-92-2116

E-mail kohiyama_hyk4042@town.aga.lg.jp kyoiku3@town.aga.ed.jp

教材研究と見取りが大切

